

思考力、計算力、知識、全てを求められる良問が多いが、完答できる問題は3問程度であろう。
標準問題以上の反復をした後に、過去問演習を時間をかけて、じっくりと行うことが必要である。

解答方式	時間	大問数	難易度
全て記述形式	150分	6問	標準～難

■設問別分析

大問	範囲	出題分野	形式	難易度
1 (1)	数学B	ベクトル	空間ベクトルとして、座標を設定し、面積を求める問題	標準
(2)	数学II	三角関数	tanの値を求める問題	
2 (1)(2)	数学A	確率	赤球、白球の確率漸化式	標準
(3)	数学III	極限	数列の和の極限	
3 (1)(2)	数学III	積分法	共有点に関する問題	標準
(3)			置換積分	
4 (1)(2)	数学III	微分法	不等式の証明、極限	やや難
(3)			中間値の定理	
5 (1)～(4)	数学A	整数	余りに関する整数問題	やや難
6 (1)(2)	数学II	軌跡と領域	領域の図示	やや難

■最新問題 ポイント解説

大問1

三角比などで考えると、必ず手詰まりになる。空間図形では特に、ベクトルの設定は有用である。

大問2

誘導が丁寧であるため、漸化式をしっかりと立てることができれば容易である。

大問3

(2)で、解と係数の関係から、式をきれいにまとめることが鍵となる。積分計算も易しいので完答したい問題。

大問4

(1)の証明は、丁寧に大小関係を見抜くだけで良い。

(2)の極限は、不等式を使った頻出問題だが、気づくのが難しいだろう。

(3)は中間値の定理を用いる。

大問5

(2)までは易しい。(3)は、素数であることに注目すれば、意外と容易である。

大問6

方程式が解を持つ条件から、丁寧に場合分けして範囲を求める必要がある。